

第8回 東備西播定住自立圏形成推進協議会 会議録

1 日 時 平成23年10月17日(月) 15:00～16:25

2 場 所 赤穂市役所 6階 大会議室

3 出席者

- (1) 委 員 豆田正明(赤穂市長)
明石元秀(赤穂市副市長)
藤本敏弘(赤穂市議会議長)
家入時治(赤穂市議会副議長)
西岡憲康(備前市長)
津島 誠(備前市議会議長)
金本 享(備前市議会副議長)
竹本義昭(上郡町長職務代理者)
山本守一(上郡町議会議長)
大政正明(上郡町議会副議長)

- (2) 幹 事 赤穂市:三谷企画振興部長
備前市:馬場総務部長
上郡町:岡本企画財政課長

(3) 事務局及び各市町担当者

- 赤穂市:一二三企画課長、平野企画係長、中村主査
備前市:森脇企画課長、田原企画課長代理
上郡町:前田企画財政課参事、宮下企画財政課副課長

- (4) 説明員 ①教育施設部会:掃部部会長(赤穂市生涯学習課長)
②給食部会 :田淵学校教育課長(上郡町)
③観光部会 :溝田部会長(赤穂市観光商工課長)
④農林商工部会:高田部会長(赤穂市農林水産課長)
⑤交通部会 : (森脇部会長)
⑤通信情報部会:沼田部会長(赤穂市情報政策担当課長)
⑥職員部会 :藤本部会長(赤穂市人事課長)
⑦交流定住部会:(一二三部会長)
⑧地域医療分野:矢野赤穂市民病院事務局長
⑨環境分野 :森本環境課長(備前市)

4 会議の概要

(1) 開 会

(2) 会長あいさつ

(3) 報告事項

平成22年度 東備西播定住自立圏形成推進協議会事業報告について

平成22年度 東備西播定住自立圏形成推進協議会決算について

(4) その他

東備西播定住自立圏共生ビジョンの平成24年度見直し(案)について

(5) 閉 会

5 議事の概要

事務局

定刻になりましたので、ただ今から、第8回東備西播定住自立圏形成推進協議会を開催いたします。

私は、司会進行の赤穂市企画振興部長の三谷です。よろしくお願いします。

さて、議事に入ります前に、本日の協議会に傍聴の申し出がございます。

会議の傍聴につきましては、本協議会「会議規程」第2条で原則公開となっておりますが、出席委員の過半数の決定により非公開とすることもできます。

本日の議事内容は、お手元のとおりでありますので、会議の冒頭から傍聴を認めたいと思います。

また、写真等の撮影希望があれば「会長あいさつ」までとし、会議中の撮影、録音はできないこととしたい、と考えておりますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

異議なしというお言葉をいただきましたので、傍聴を認めるということで、傍聴の方にお入りいただきます。

しばらくお待ちください。

(傍聴者、報道入室)

それではお待たせいたしました。

報道の方をお願いいたします。会議中の写真撮影等をご遠慮いただきますので、ご希望があれば、ただ今から会長あいさつまでの間、写真等の撮影を認めたいと思います。

必要な方は、この時間をお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、会長であります豆田赤穂市長よりごあいさつを申し上げます。

豆田会長

本日は、お忙しい中、第8回東備西播定住自立圏形成推進協議会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

3月以来の開催ということであり、この間、赤穂市議会や上郡町議会の役員改選、さらには上郡町長の突然の辞職がありました関係で、本日新たに3名の皆さんに、委員として出席いただいております。新委員におかれましては、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、東備西播定住自立圏構想につきましては、皆さんご承知のとおり、圏域全体の魅力の向上と、活力ある地域を作るため、共生ビジョンに基づく事業を昨年度から実施しているところでございます。

委員の皆様も、各種事業への積極的なご参加をいただくなど、それぞれのお立場でご尽力をいただいているところであり、その効果もあって圏域住民にも、この取組みが認識されつつあると思います。

本日は、22年度決算についてご報告いたしますとともに、本年度上半期における事業の進捗状況をご説明した上で、24年度の共生ビジョンの見直し案について、ご協議をいただきたいと存じます。また、特に住民の皆さんの関心が高い圏域バスにつきまして、その素案をご説明することとしております。

委員各位の忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではありますが、開会のあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。報道関係の方、以上で撮影の時間を終了いたします。議事に入ります前に、委員のうち備前市森山副市長より欠席の連絡を受けております。

また、先ほどの会長あいさつの中でもお話がありましたが、赤穂市議会及び上

郡町議会で役員改選があり、委員として新たに赤穂市、藤本議長と、上郡町、大政副議長にご出席をいただいております。なお、赤穂市、家入委員におかれましては、総務文教委員長から副議長として出席いただくこととなっております。

また、現在、上郡町では町長及び副町長がご不在となっております、本日は竹本町長職務代理者にご出席をいただいております。以上、ご紹介をさせていただきます。

新たにご出席いただきますお三方から一言ずつ自己紹介をお願いいたします。

まず、赤穂市議会議長、藤本 敏弘 様。

次に、上郡町議会議長、大政 正明 様。

次に、上郡町長職務代理者、竹本 義昭 様。

ありがとうございました。

なお、お手元に委員名簿及び本日出席の説明員名簿を配布しておりますので、ご覧いただければと思います。

それでは会長、議事進行をお願いいたします。

豆田会長

それでは、3の報告事項に入ります。

(1)の「平成22年度東備西播定住自立圏形成推進協議会事業報告」および(2)の「平成22年度東備西播定住自立圏形成推進協議会会計歳入歳出決算」につきましては、それぞれ関連がありますので、一括して報告をお願いしたいと思います。

事務局、説明をしてください。

事務局

平成22年度東備西播定住自立圏形成推進協議会事業報告及び決算について、説明いたします。

委員の皆様には、5月17日付で事前にお送りしました資料と同じものでございます。

それでは、議案書1ページをお願いいたします。平成22年度事業報告、東備西播定住自立圏形成推進協議会の開催状況についてです。

平成22年4月2日に第5回目の協議会を開催し、共生ビジョンの報告と22年度予算について、ご協議いただきました。

続いて第6回協議会を、10月6日に開催し、21年度決算報告と22年度補正予算等について、ご協議をいただきました。

第7回協議会を3月23日に開催し、共生ビジョン第1回変更についての報告と、規約の一部改正及び23年度予算について、ご協議いただきました。

次に、別添の「平成22年度事業報告書」をお願いいたします。

1ページ、「地域医療の連携」として、2事業を行いました。医療連携研究会事業として、「コミュニケーションエラー」「公立病院の運営」「医療事故防止」のテーマで、研究会を3回行い、事業費は28万7,971円でした。医療情報研究会事業は、「看護倫理」をテーマに研究会を行い、事業費は2,920円でした。実施日、参加者数等は、掲記のとおりです。

続きまして3ページ、生涯学習の推進として「巡回展開催事業」はじめ、8事業を行いました。巡回展開催事業ですが、3市町の埋蔵文化財を巡回展示する「新発見考古速報展」を開催し、事業費は49万4,137円で、出品数、各市町での開催日数、入館者数等はそれぞれ掲記のとおりです。

次に4ページ、文化施設収蔵資料公開・交流事業ですが、「東備西播定住自立圏ゆかりの画家、書家たち」展を、赤穂市文化とみどり財団に委託し、赤穂市立美術工芸館で実施しました。事業費は65万1,000円で、出品数、実施期間、

入館数は掲記のとおりです。次に、指定文化財・文化施設等巡りツアー事業ですが、9月11日、3市町の文化財や文化施設等を巡るツアーを実施し、121人の方が参加され、事業費は48万6千円でした。

次に5ページ、伝統芸能・郷土芸能大会開催事業ですが、10月24日に赤穂市文化会館に3市町と赤穂市の姉妹都市である熊本県山鹿市から合計11の団体に出演いただき、「郷土・伝統芸能まつり」を開催いたしました。事業費は、235万円でした。

6ページ、チャレンジデー開催事業は、3市町対抗により1日15分間以上運動をした住民の参加率を競う事業で、事業費は60万円でした。参加率等、結果につきましては、掲記のとおりです。

7ページ、図書館相互利用推進事業ですが、3市町の公立図書館と関西福祉大学図書館の相互利用を図るため、利用者カードや周知用ポスター・チラシ等を作成しました。事業費は85万2,350円でした。

文化・スポーツ交流事業は事業費はゼロですが、3市町で開催する大会情報を広報等を通じて圏域全体にPRするとともに、体育指導委員の交流を図りました。

8ページ、文化・スポーツ施設相互利用促進事業ですが、3市町の文化・スポーツ施設の使用料金格差をなくし、お互いが利用しやすくするため、条例等の改正を行いました。

9ページ、上郡町学校給食施設整備事業は、上郡町におきまして学校給食の実施に向けた検討を行っております。

続いて10ページ、産業振興として「地域ブランド発掘事業」をはじめ、4事業を行いました。

まず、地域ブランド発掘事業ですが、農商工連携セミナーをはじめ地域ブランド発掘のための事業を行いましたほか、3市町の商品をかきまつりなどに参展しました。事業費は98万3,964円でした。

12ページ、有害鳥獣対策事業は、ヌートリア捕獲用おりを各市町10基購入するとともに、10月を強化月間として市町界及び県境での共同捕獲活動を実施しました。捕獲実績については、記載のとおりであります。

13ページ、企業誘致促進事業は、神戸国際展示場で行われました「国際フロンティア産業メッセ2010」、及びインテックス大阪で行われました「関西機械要素技術展」に3市町合同で出展し、PRを行いました。事業費は211万9,360円です。

14ページ、観光振興推進事業は、3市町による圏域全体の広域的な観光振興を図るため、GAP調査の実施、旅づくり塾による観光振興策の検討をはじめ、新たなご当地グルメとして「塩もろどん」と「いとこぜんざい」を決定し、一般に向け販売を開始いたしました。事業費は427万5,001円です。

16ページ、地域公共交通の関係ですが、「圏域運行バス調査・検証事業」として、圏域バス運行に向け、関係機関との協議を行いました。事業費は、2万4,200円でした。

17ページ、JR利便性向上事業は、JR山陽本線と赤穂線の利便性向上を図るため、兵庫・岡山両県境協議会の要望と合わせて、JR西日本岡山支社及び神戸支社に対し要望をいたしました。事業費は、5万7,240円です。

続きまして18ページ、ICTインフラ整備の関係のうち、まず地域情報活性化事業は、総務省の「地域ICT利活用広域連携事業」に「地域防災」を内容として応募しましたが「不採択」となり、その後、ASP、民間サービスを利用する方式に変更し取組みを進めました。

19ページ、圏域ホームページ作成事業は、圏域事業の広報をはじめ、各市町

の事業も情報提供できるよう、協議会ホームページを立ち上げました。

続きまして20ページ、地域内外の住民との交流・移住促進の関係ですが、まず「定住自立圏フォーラム開催事業」として、定住自立圏の制度や取組み内容について、住民の方々に広く周知し、圏域外へも情報を発信するため、元総務大臣の増田寛也氏をお招きし、フォーラムを実施しました。来場者数は約380人で、事業費は319万9,128円でした。

21ページ、民間イベント等助成事業であります。圏域内外の住民交流の促進と賑わいを創出する事業として、9団体のイベントに対し補助を行い、事業費は103万4,415円でした。

続いて23ページ、定住相談会開催事業ですが、3市町合同により定住相談会を東京と神戸で行いました。事業費は85万8,680円でした。

続きまして24ページ、圏域内の職員等の交流ですが、3市町職員の研修として、総務省地域自立応援課より北村主幹様にお越しいただき、定住自立圏全般の講演を、また赤穂市の橘企画振興部長から東備西播定住自立圏についての講演を行いました。事業費は、4万4,392円でした。

25ページ、職員研修参加交流事業として、備前市の研修に赤穂市と上郡町の職員が参加し、赤穂市の研修に備前市と上郡町の職員が参加して職員間の交流を図っております。

人事労務担当諸君研究会、26ページ、専門家招へい事業、職員交流〔派遣〕事業については、それぞれ掲記のとおりです。

続きまして、議案書2ページをお願いいたします。

歳入歳出決算についてであります。

上段には、決算額の集計を一覧にしております。

歳入総額は 2,963万4,387円、歳出総額は 2,277万9,910円で、差引残額は 685万4,477円となりました。残額は平成23年度へ繰越しました。

それでは、歳入、歳出別に説明させていただきます。

先に3ページ、歳出をお願いいたします。

まず、1款 総務費、1項 総務管理費、1目 一般管理費は、臨時職員に係ります共済費や賃金など主に事務局運営経費として 388万6,687円を執行しました。なお、車両事故に伴い、22節 補償補てん及び賠償金、車両事故賠償金として152万43円を執行したほか、役務費の中、事故証明手数料1,080円と合わせた152万1,123円が事故に係る支出額であります。なお、その同じ額を、保険金として雑入に歳入しております。

続いて、2款 事業費、1項 事業費、1目 活動事業費は、先程、事業報告でご説明申し上げましたとおりです。

執行額は、合計で1,889万3,223円でした。

3款 予備費の執行はゼロで、結果、歳出総額は 2,277万9,910円です。

続きまして、歳入の説明をいたします。

まず、分担金及び負担金として、備前市から2,550万円を収入いたしております。

また前年度繰越金として、260万842円を、諸収入、雑入として、153万3,545円を収入しています。

結果、歳入総額は、2,963万4,387円です。

平成22年度事業報告及び決算についての説明は以上です。

- 豆田会長 事務局の説明は終わりました。
事務局からの平成22年度事業報告及び決算報告が終わりましたので、合わせて決算審査報告を、監事であります備前市 津島委員からお願いしたいと思います。
- 津島委員 監事の津島です。
監事を代表し、平成22年度の決算審査報告をいたします。
東備西播定住自立圏形成推進協議会規約第9条第2項の規定に基づき、平成22年度東備西播定住自立圏形成推進協議会会計について、会計監査を実施しました。
平成23年5月16日上郡町役場及び備前市役所で厳正な監査を行い、結果、平成22年度東備西播定住自立圏形成推進協議会会計について適正かつ正確に処理されていたので、ご報告いたします。
- 豆田会長 ありがとうございます。
決算に関する説明は終わりました。決算審査報告も踏まえまして、22年度事業につきまして、何かご質問等ありますか。
- 山本委員 一つ気になりますのが、医療分野の成果が住民のみなさんに見えにくい状況になっているのではないかとことです。このことについて、今後、住民が希望する医療分野への考え方についてお聞きしたい。
- 事務局 地域医療に関しましては、現在職員同士の顔が分かる、見える状況づくりに努めているところです。また、23年度上半期のご報告にさせていただきますが、いろいろな研究会を予定して事業を進めているところです。
- 山本委員 先ほども申し上げましたが、できればもう少し成果が見える内容で進めてもらいたい。
- 西岡副会長 上郡町もだが、備前市も市民病院が3つもあるが、なおかつ赤穂市の病院にお世話になっているのが実情です。私自身も赤穂の中央病院に2週間ほど入院したことがあるが、特に備前市の中でも赤穂市に近い日生や三石などは、第一次的には地元の病院を使いますが、それより少し難しいことになると赤穂市民病院か赤穂中央病院に行きます。
その場合、今から6年ほど前に研修医制度が始まり、結局お医者さんが大都会に偏っていった。その経緯で赤穂の市民病院も医師不足になった。この定住自立圏で、理想は赤穂市民病院から医師を派遣してもらおうことだが、肝心の市民病院が医師不足なのでできないのが実情。
その中、赤穂中央病院は大学の医局が備前市の病院と同系列であるということもあり、派遣しようという話になり人も大体決まっていたが、この定住自立圏のプランに載せておかなければならないのにそれができていなかった。
中央病院は私立だが、中央病院とも派遣協定を結べるように検討してもらいたい。派遣する医師の時期などいろいろあると思うが、中央病院の方は融通がきくような印象を私は受けた。中央病院は私立だから、という発想は捨てて検討していただきたい。
- 地域医療部会 赤穂市民病院から備前、上郡の病院に医師を派遣できることが理想ではありま

すが、それができない状況です。

地域医療の連携としましては、大学の系統が違うということもあり、これまで互いに顔が見えなかったために患者さんの紹介もできないということ解消するところから始めるため、職員間の連携を図ってきました。

職員間だけの研修だと地域医療の状態がどんなものか、なかなか市民のみなさんに理解してもらえないので、今後は市民も交えた研究も検討していきたいと思えます。

豆田会長

中央病院との連携の在り方は当初から課題になっていましたが、なかなか先に踏み込んでいません。今後の課題であろうとは思っています。

西岡副会長

もう一点、この間の大震災以来、自然エネルギーの活用などを積極的に行うなど環境というのは花形になってきています。今までのように、水をきれいにしましょうとか、ゴミを少なくしようという守りの環境から攻めの環境に移行しつつあります。

住友大阪セメントのセメントに混ぜる技術なども環境に重要な分野だと思うので、これについてもっとお互い深く取り上げて協力できるところは協力していくべきと思えます。

平成16年の台風の災害の時に大いに感じたのですが、災害で一時的なゴミが大量に出ます。自分のところのゴミ処理場やセンターだけでは処理ができず岡山市まで持って行きました。災害はお互いに起こり得ることなので、ゴミの処理など、環境という分野でそういった連携をすることも大きな課題ではないかと思えます。部会で話を進めてもらいたい。

環境部会

環境部会では今、基本的には地域の自然エネルギーに係わる取組みができないか協議、調整をしているところです。今後、それらのことについて定住自立圏の中で、何か良い取組みができないかと考えています。

災害ゴミにつきましては、3市町の中で今後も協議をさせていただきますし、また住友大阪セメントの関係につきましては、備前市としては受け入れてもらえることを前提に現在調整を行っているところです。

他市町のゴミを受け入れるということについては厳しい課題もあろうかと思えますので、それを協議の中でどのように解決できるのか。特に、焼却施設のある地域の方々にどうのご理解をいただけるのかということも配慮しなければならないので、それについても今後協議していきたいと思えます。

家入委員

医療の連携は、本当に見える形にしないと住民のみなさんにこの定住自立圏構想がどのように活かされているか見えてこないと思う。研究会も上郡町が参加できる内容にするべきと思うが、どうか。

先ほど住民が参加できるような研究会をやりたいということでしたが、住民を集めることも難しいし、備前市長が言われたような医師の派遣というのも現状では大変難しい状況にあると思えます。圏域バスの運行の案の中にも中央病院で停車という案もありますが、そういうことをきっかけに岡山側の先生と少しでも結びつかないかなと思う。医療連携は大変難しいとは思いますが、やれるところだけをやるのではなく、もう少し踏み込んだ政策を進めていってほしいのでもう一度考えをお伺いしたい。

それからもう一点、文化・スポーツの関係はいろいろ交流をやられていて住民の方の参加も多く良いのですが、スポーツの部分でいくと予算が全くついていない。予算をつけずにたくさんの人が参加してくれることはいいことだが、昨年の

件であれば中学校の野球大会をするにあたって優勝旗をつくったり、商品を出すことなどはできないのか。

地域医療部会

今までの病院間では顔が見えないなど、地域医療がどれだけ困っているかということが利用される方にはほとんど無関係という状況です。赤穂市民病院、備前市の3市民病院はじめ、全国どの病院でも医療を安心安全に提供するため、医師や看護師を集めるのに大変苦勞している状況を住民の方に理解してもらうためにも研究会を実施していこうと思っています。

赤穂市では平成11年から地域医療連携会という会をもち、今年度も11月に実施予定で毎年実施していますが、出席されていた医師が限られた状況だったのが少しずつ増えてきており、連携が少しずつ進んでいる状況にあるのかなと思っています。

事務局

スポーツの関係であります。教育施設部会の方で今後いろいろ検討していただくのも方法ですし、スポーツ交流として、例えば民間イベント等助成事業という事業を利用し、スポーツの大会を開催することも可能です。

大政委員

医療のことですが、各医療機関で医師派遣が非常に困難になった際、場合によっては縮小することが起きています。せっかくこの2市1町で一つの圏域としていっしょにやろうとしているわけですから、どのような地域医療が理想的であるかという議論を、各医療機関とそれから医師の派遣先である大学病院なども巻き込んだ議論はできないのか。

地域医療部会

赤穂市民病院の医師を派遣いただいているのは、京都大学、神戸大学、滋賀医科大学をはじめ、その他多くあります。備前市さんの3病院は岡山大学のみと聞いていますが、それぞれの大学に医師を派遣してくださいと要望を常に申し上げていますが派遣できる状況にないと言われます。

では、どうすればよいのかということで、各病院に今現在いる医師が連携をとり患者さんを診る連携を深めていこうとしています。今まで患者さんの逆紹介がうまくいっていなかったところも少しずつ成果が出てきており、連携が取れ出したのではと思っています。

西岡副会長

私も市内に3つも市民病院があるから苦勞しました。4万人の小さな人口のところに3つもいらないと言われましたが、逆に市内どこからでも車で10分以内に行けますよというキャッチフレーズにしています。

最近小豆島からも来ていて、第一次的に日生の病院に行って手におえなかったら赤穂の市民病院か中央病院に行くようになっています。

私は市民病院は市民の病院だから市内に4つあっても5つあってもいいと思っています。多い方がみなさんも安心だと思います。経営的には、幸い吉永病院は黒字、日生病院も黒字に転じ、残るは備前病院だけです。赤穂市民病院の前の院長先生も言っていたが、市民病院は儲けなくてもいいから損をしないように低空飛行できれば市民も安全だと思っています。

お医者さんの数は、平成16年度から研修医制度が変わり、どの病院に行ってもいいようになってから大きい病院に行った方が手術の例が多いし勉強になると6大都市に研修医がたくさん行くようになりました。もう一つの理由は、子供をいい大学に入れるため、いい高校に行かせたいという隠れた理由があります。それで6大都市に集中するから困って、数を制限しました。

6大都市の数を限り余らせるようにしたものをどうするか、去年、フォーラム

で増田氏が来たときにお医者さんのハローワークを作らなければダメだと私は申し上げました。例えば、九州には行くが北海道は寒いから嫌とか、この条件なら良いというようにお医者さんと病院をマッチングさせるハローワークが必要だと言ったら増田さんも分かりましたと言って帰られました。そしたら、今度 500 億円ぐらい予算をつけてくれて、来年から岡山県でも地域医療センターとマッチングさせることも含めた医療機関をつくることになりました。

このように、今後は大学の系列というものを越えてやっていかなければならないと思っています。

豆田会長

今、西岡副会長が言われたように、医療についてはいろいろな絡みがあります。逆に私立の病院と公立病院、どこで選択するかということになるとお金です。そうすると、今のような公務員制度で動いていいのかという大きな問題も浮かび上がってくるのではないかと思います。

現在ははっきりと目に見える成果は見られていませんが、これから 2 市 1 町の住民の中で良い医療を受けたいというような形態はみんなで作っていかなければならない。やはり地道な努力が必要かと思えますし、もうしばらく時間がかかるのかとは思いますが後戻りせず協議を続けていきたいと思えます。

家入委員

医療の関係で、赤穂市も市内の診療所にも医師・看護師を派遣できない状況になっていて非常に厳しいという中で、先ほど事務局長が連携をとということでお互いの患者さんをどう見ていくかという部分がありました。システムの電子カルテについてお聞きします。先日赤穂市も入れ替えました。先ほど備前病院が建替え中と言われていましたが、システムとして同じにして、患者さんを 1 回目と 2 回目と病院が変わっても診てもらえるような連携は図れないのか。

地域医療部会

備前市の 3 病院のうち日生病院は富士通、備前病院と吉永病院は NEC と聞いています。赤穂市民病院は富士通ですので、富士通同士ですと電子カルテの閲覧することは可能と思いますが、NEC と富士通であれば少し難しいと思えます。建て替え中の備前病院が富士通になれば電子カルテの閲覧は可能です。

豆田会長

他に質問はありませんか？
ないようですので、平成 22 年度決算について承認するというので、よろしいですか。

(異議なし)

それでは、次のその他に入りたいと思えます。

事務局、説明してください。

事務局

それでは、東備西播定住自立圏共生ビジョンの平成 24 年度見直し案について説明させていただきます。この件につきましては、本年度上半期の事業進捗状況と関連がありますので、まず「東備西播定住自立圏形成推進協議会部会報告書(23 年度上半期)」について説明させていただきます。

まず、地域医療の連携のうち、医療連携研究会事業は 9 月末時点では実施しておりませんが、今後、医療関係者等を対象とした集合研修・講演会を開催する予定です。医療情報研究会事業も 9 月末時点では未実施ですが、今年度は圏域住民を含めた研究会を実施する予定で進めているところです。

生涯学習の推進のうち、巡回展開催事業は開催館として、備前市は埋蔵文化財管理センター、赤穂市は旧坂越浦会所、上郡町は郷土資料館を決定し、8 月 27 日に上郡町郷土資料館にて展示を開始し、9 月 28 日から旧坂越浦会所にて展示

を開始しています。また、11月3日からは備前市埋蔵文化財管理センターにて展示を開始予定となっています。指定文化財・文化施設等巡りツアー事業は、10月1日に開催いたしまして参加者は94名でした。チャレンジデー開催事業は、5月25日に実施し、1位備前市、2位上郡町、3位赤穂市という結果でした。図書館相互利用推進事業は、平成23年4月より相互利用を開始し、9月末現在の状況を掲載させていただいています。文化・スポーツ交流事業は、9月3日に備前市で予定していましたが、台風の関係で中止となっています。今後12月3日に赤穂市で交流会を開催する予定です。文化・スポーツ施設相互利用促進事業は、3市町の住民が同じ条件で利用できるよう関係条例等を4月1日から改正し、広域利用対象施設を掲載していますので確認をお願いします。赤穂市文化会館整備事業は、受電設備の改修を平成23年8月に行い、音響設備の改修を平成24年1月から2月に行う予定です。上郡町学校給食施設整備事業は、上郡町において給食センター用地を選定し、その後実施することになっています。

地産地消の推進及び地域ブランドの発掘のうち、地域ブランド発掘事業は、平成23年4月1日に地域ブランド発掘事業推進支援要綱を施行し、7月5日の第1回農商工連携セミナーをはじめ記載のとおり実施しています。有害鳥獣対策事業は、平成23年7月から8月に鳥獣害対策啓発冊子「これならできる！獣害対策実践マニュアル」を作成し、3市町全戸に配布しました。企業誘致促進事業は、10月5日から7日におきましてインテックス大阪におきまして「第14回関西機械要素技術展」に出展いたしました。

観光振興の推進、観光振興推進事業は、観光情報誌「るるぶ」の地域版の編集を決定し、JTBにおいて編集を行い、平成24年2月に完成予定となっています。

地域公共交通ネットワークの構築のうち、圏域運行バス調査・検証事業は、ルートの検討と圏域バス検討会議設置について協議を行いました。これにつきましては別途、事務局作成の素案を用意していますので後ほど説明させていただきます。JR利便性向上事業は、平成23年度要望につきましては、東日本大震災の影響により開催を見送ることとしております。

地域情報ネットワークシステムの構築のうち、地域情報活性化事業は、地域SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の開設に向け、現在登録作業中です。圏域ホームページ作成事業は、赤穂市のホームページ変更に伴い、圏域ホームページについても再検討を行っています。

住民交流のうち、民間イベント等助成事業は、平成23年4月24日に公開審査を行い、掲記の8団体の助成を決定しています。赤穂国際音楽祭開催助成事業は、7月4日に定住自立圏枠を設け39名応募があり、それぞれ送迎バスを運行いたしました。なお、本日音楽祭の報告書を配布しておりますので、後ほどご覧ください。それから来年度につきましては、榎本大進さんから姫路市との合同開催に向けた提案があり、現在協議を行っているところですのでご報告いたします。定住相談会開催等事業は、関東会場として9月23日「ふるさと回帰フェア2011」に参加しました。なお、前回の協議会でご意見をいただきました東北地域での相談会の開催につきまして部会で検討を行いましたが、被災地の住民感情を考えますと時期尚早ということで見送らせていただきたいと思います。ただ、今後状況が変わり、ふるさと回帰フェアが東北地方で開催されるということであれば、是非参加をしたいと考えています。

圏域内の職員等の交流について、職員研修事業は9月末時点で未実施です。職員研修参加交流事業は、8月24日、25日に備前市で人権研修、10月5日に赤穂市で公務員倫理研修を開催し、各市町職員が参加しました。また11月7日、8日には接遇研修を開催する予定としています。人事労務担当職員研究会（交流）

事業は、10月20日に備前市で開催する予定です。専門家招へい事業、職員交流派遣事業は、それぞれ現時点では実施していません。

次に東備西播定住自立圏圏域バス運行計画（案）を説明させていただきます。目的は、圏域住民の移動手段の確保、利便性の向上及び地域の活性化を図るため、赤穂市内の医療施設及びショッピングセンターと備前市及び上郡町を結ぶというものです。運行主体は、ウエスト神姫と日生運輸です。運行ルートは、上郡ルートと備前ルートの2ルートで、別紙をつけています。上郡ルートは、上郡駅から千種川を下りジャスコ、赤穂市民病院というルートです。備前ルートは、吉永病院から三石駅、赤穂中央病院を経由して赤穂市民病院、ジャスコというルートを計画しています。運行日及び便数は、月曜日から土曜日までの週6日間で祝日も運行し、日曜日及び年末年始は運休、各ルートとも1日2往復を考えています。運賃は、赤穂市内及び上郡町内は100円、備前市内はコミュニティバスとの関係もあり200円とし、市町域を超えた場合は200円とします。小学生未満のみ無料とし、高齢者及び障がい者の割引は実施しないこととしています。

続きまして、事業実施および協議状況を踏まえまして、来年度に向けた共生ビジョンの見直し案を説明いたします。

お手元の「東備西播定住自立圏共生ビジョンの平成24年度見直し案」をご覧ください。上段が修正前、下段が修正後ということで、上郡町学校給食施設の整備に伴う文言整理を行い修正しようとするものです。

以上で説明を終わります。

豆田会長

事務局の説明は終わりました。

本年度の事業実施内容、及び共生ビジョンの変更案について、何か質問等ありますか。

西岡副会長

バスの備前ルートの中で、吉永から来て三石から市民病院、ジャスコに行くようですから、もう少し足を伸ばして赤穂駅まで行けないでしょうか。もしくは最後、グルグルっと回ってジャスコに行ったときに赤穂駅まで行けないのか。赤穂市内の人もそれを利用すると思いますので、駅まで行くというのはポイントになるのではないかと思いますし、その方がJRも喜ぶのではないかと。

事務局

赤穂駅につきましては路線バスをはじめ他の交通機関との関係もあり、ウエスト神姫と協議のうえ事務局案を作らせていただきましたのでご理解をお願いしたいと思います。

豆田会長

今後具体的に検討していきますので、その中で問題提起をしてもらえれば良いのではないのでしょうか。

山本委員

将来的な課題として、この2ルートが3ルートになるよう検討していただきたいのと、赤穂市のゆらのすけに影響はないのかについてです。

例えば上郡町の場合は、赤穂市と同じぐらいの停留所を上郡町内に設置して欲しいという思いもありますが、一方で今度走らせる上郡町独自の公共交通の利用率が下がるのではということで現行の上郡駅スタートが良いと思っていますが、赤穂市のゆらのすけはこの圏域バスとかぶらないのか、お聞きしたい。

事務局

現在のゆらのすけルートと重なっている部分はあります。ただ、このバスは、

上郡町民と赤穂市民の利便性、また市民病院までの足を確保するという目的で走らせますので、結果として同じルートになるものです。

山本委員 ゆらのすけの利用者数に影響が出て仕方がないということか。

事務局 影響はあると考えています。

豆田会長 具体的に決め、まずは運行するというので、その中でまた問題点等も出てくると思います。停留所の関係も、上郡町からたくさんの方が乗れば赤穂市ではなかなか難しいかなという感じはしています。とにかく走らせてみないことにはどのくらいの成果があるか分からないので、その後再検討になるかと思います。

家入委員 先ほど備前市長が言われたように、上郡ルートの場合も赤穂駅は難しいのかというのが一点。

それから、修正案の学校給食の圏域内の地産地消の推進ですが、赤穂の給食も地産地消を進めようとして取り組んでいますが、現実には赤穂市内の地産の材料がなかなか揃わないということで限られた日しか地元の野菜とかが食べられないという状況です。今回、上郡町が学校給食の建設を進められていますが、その後の地産地消、備前市、赤穂市、上郡町の産物をどのように給食に結び付けて地産地消を進めていくのか伺いたい。

事務局 一点目の圏域バスの上郡ルートですが、これにつきましても路線バスとの関係、またJRとの関係もあり、このルートで進めています。

給食部会 地産地消につきましては、先ほど言われましたように大変難しい問題であり、備前市も赤穂市も難しいというのが現状です。

赤穂市では5千食、6千食という規模もあり、一気にその数の食材を揃えることが難しいということもあります。上郡町では1千食を予定していますが、それぞれの規模に合う範囲でこれから検討を始める段階でございます。せっかくの定住自立圏ですし、できれば圏域で揃えていければということで、今後取り組みを進めていきたいと思っております。

家入委員 観光の関係で「るるぶ」が作成されるということで非常に楽しみなんですけど、どういったところで販売するのか。その辺の考えを聞かせていただきたい。

観光部会 「るるぶ」の件ですが、「るるぶ」の販売はいたしません。カスタム版といいまして、16ページのものを予定しておりますがそれを配布することになります。例えば備前焼祭りなどイベント会場で配布するとか、首都圏で配布するとか、3市町で圏域をPRしたいと考えております。

家入委員 販売しないということは売れないということですか。やっぱり、ある意味では、売って観光ルートの値打ちというものを出すということも考えられるのではないかと思います。最初は配布がいいのかどうか分かりませんが、それと都市圏のどの辺りをターゲットにしているのか。意外と地元の人が見ると、3市町の意外ないいところも分かっていい結果になっていると聞きますが、その辺りの考えはどうなっていますか？

観光部会 販売用の「るるぶ」は予算が合わなかったということが正直なところです。

1,500万円ほどかかると言われましたので、それを諦め16ページのカスタム版にしました。

「るるぶ」は西日本のJTB各店に置いてもらえることになっており、西日本中心に配布されます。それと、兵庫・岡山の旅館には配布していただけるということですので、PRの方は相当できるのではないかと期待しています。

豆田会長

他にありませんか。ないようですので、本日のご意見を検討のうえ、ビジョン変更案を作成するというので、よろしいですか。

(異議なし)

それではそのように決めます。

次に(2)「その他」ですが、事務局から何かありますか。

事務局

本日のご意見を踏まえ、今後開催するビジョン懇談会での協議を経て共生ビジョンの見直しを行いたいと思います。

ただし、来年度の事業費につきましては、各部会での予算積算、予算査定の必要がありますので、事業費の見直しまで含めた平成24年度版共生ビジョンの策定は、年明けになる予定です。

策定でき次第、協議会を開催し、ご説明したいと思います。

従いまして、次回協議会日程につきましては、別途調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

豆田会長

次回協議会の開催日程は、事務局で調整させていただきますので、皆さん、よろしくお願いいたします。

その他にありませんか。

ないようですので、本日の会議は終了いたします。

ご苦労さまでした。

了

(16時25分)